学校を森林公園にするための取組み

青森県立五所川原農林高等学校
林業科２年　樋口祥也　葛西佑亮　神友紀

１　はじめに

青森県立五所川原農林高等学校（写真 1）では、創立百周年を迎えた平成 14 年度から林野庁の補助事業である生活環境保全林整備事業が実施され、5 年間にわたった事業が今年度完成しました。この事業が学校敷地内に整備されるのは全国でも唯一ではないかといわれており、事業採択から事業計画、事業実施にいたる過程については、平成 15 年度のこの発表会で紹介しています。今回の発表は、完成した本校の生活環境保全林の紹介とこれまでの活用状況について報告いたします。

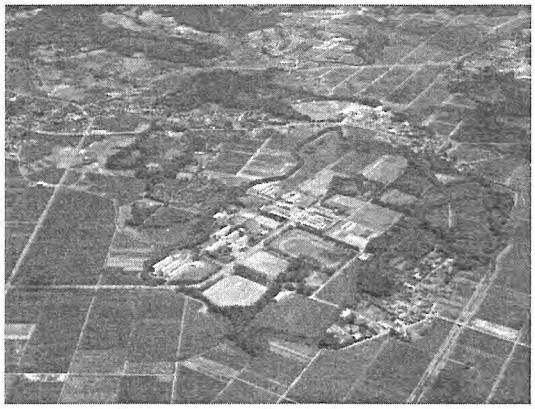

写真 1

２　事業採択までの過程と計画への参加

本校の位置する津軽平野一帯は、冬になると日本海側からの強い季節風（図 1）により、この地域特有の強烈な地吹雪が吹きつけ、ひどい場合には 1m先も見えないという状況も年に数回見られます。本校においても正門からの直線道路、通称五農街道 400m は周囲が水田ということもあり、事業実施前には防風ネットが設置されていましたが、ほとんど効果がない状態でした。また、この五農街道から裏門までの道路は、地域住民の生活道としても活用されており、視界不良による交通事故が発生する危険性もありました。このような厳しい自然環境の反面、約 60ha の校地内には豊かな自然が残されています。林業科の生徒による生物調査では、種の保存法、環境省絶滅危惧Ⅱ類に指定されているオオタカの営巣や、フクロウ、カワセミなどの鳥類のほか、ミクリ、サイハイラン、ミズチドリなどの貴重な植物（写真 2）のほか、タヌキ、テンなどの哺乳類が生息しており、校地内にある農業用貯水池にはチョウトンボやショウジ

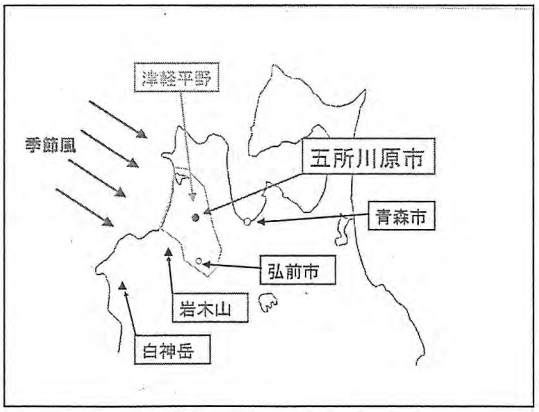

図 1

写真 2

ョウトンボなどの希少昆虫も多数生息していることがわかっています。このような豊かな自然は、本校生徒だけでなく、総合的学習で本校を訪れる小中学生にも大いに活用されてきました。しかし、近年、本校地内にはニセアカシアが猛烈に繁茂し、豊かな自然生態系が失われつつあることがわかってきました。ニセアカシアの状況については昨年のこの発表会でも報告しましたが、砂防植栽樹種として130年ほど前にアメリカから輸入された植物です。しかし、あまりの繁殖力とアレロパシー効果のために在来植物を被圧し、また、リンゴたんそ病の中間宿主でもあるため、環境省の要注意外来生物にも指定されている植物なのです。

以上のことから、地吹雪による視界不良、外来種による自然環境の悪化という問題を解決し、今まで以上に豊かな自然環境の教育への活用と地域への開放を進めるために生活環境保全林整備事業を実施していただくよう県農林水産事務所へ要望し、採択されたのでした。そして全体計画を作成するときには、本校生徒や職員が参加したワークショップにより、植栽される樹種、歩道の場所、トイレ付き施設やあずま屋の形、水辺のビオトープなどについて具体的な案が出され、実際の計画にかなり採用していただいたのです。

3　完成後の状況

正門からの直線道路には「五農街道の森」（写真 3）という防風林が設置され、その中の遊歩道は毎日、数百人の生徒が登下校に活用しています。冬季間、視界不良をもたらしていた地吹雪は、防風林がまだ低木にもかかわらず、かなりの防風効果を発揮しています。そこから続く水辺のビオトープ「昆虫の森」（写真 4）にはトイレ付き施設が設置され、田植えや稲刈りなどの実習に大いに活躍しています。また、ビオトープには環境省レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類に指定されているミズアオイのほか、たくさんの水生植物がビオトープ設置1年目から繁殖しています。また、青森県レッドデータブックBランクのショウジョウトンボのほか、ギンヤンマ、ルリボシヤンマなどのたくさんのトンボ類が生息し始めているのです。また、時々カワセミやカモ類も飛来してきています。このビオトープの数百m上流の水路では、県Aランクに指定されているヤリタナゴが、昨年、約25年ぶりに林業科の調査で確認され、このビオトープでの繁殖を期待し、校地内の貯水池からヤリタナゴの産卵に必要な2枚貝を放流しました。「昆虫の森」からは創立百周年記念植樹を行った「憩いの森」へと続き、「野鳥の森」へと歩道は続いています。「野鳥の森」

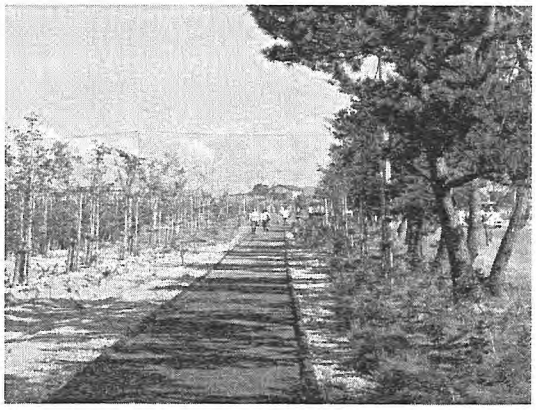

写真 3

写真 4

（写真 5）にはオオタカの営巣が確認されており、そのほかたくさんの野鳥や植物も生育している里山が残っている林業科の見本林になっています。ここではニセアカシアを活用したカブトムシの繁殖実験も行っており、昨年のこの発表会でも報告しています。また、隣接する農業用貯水池に飛来する水鳥を観察できるようにあずま屋も設置していただきました。「野鳥の森」からは「水辺の森」へと続きます。「水辺の森」ではオオバンという水鳥が繁殖しており、モリアオガエルの鳴き声も聞くことができます。朝早い時間にいくと、カワセミやたくさんのアオサギが飛来し、小魚を狙っている姿も観察できます。また、もともとここには古いかやぶきの民家が移築されており、宿泊施設として生徒の研修にも利用されています。

写真 5

正門から始まる保全林の遊歩道は「五農街道の森」から「水辺の森」まで五つの森を通り、幹線道路を通って正門までの周回道路になっており（図 2）、1 周すると約 3km になります。歩道はチップ舗装であり、とてもやわらかく歩きやすいため、毎日のように近所のたくさんの方々が散歩に訪れており、お話を聞くと、とてもいい散歩コースだとおっしゃっていました。また、歩道は段差のないバリアフリーになっており、車椅子の小学生も活用したことがあり、目の不自由な方も毎日の散歩コースにしています。防風保安林に指定されている保全林は、本校の農地はもちろん、隣接する集落や地域のリンゴ園、水田を守り、同時に豊かな本来の自然も保全しています。そして何より、本校の生徒の登下校や授業、部活動のランニングにと、延べで 1 日 1000 人以上が活用していることになります。全国には生活環境保全林が何百箇所もあると聞いています。しかし、本校の保全林ほど活用されている保全林はほかにないのではないでしょうか。そして、年が経つごとに防風林は成長し、ますます地域に開放され活用される、地域のシンボル的な保全林になるのではと考えています。また、草刈りやゴミひろい、枯れ木の除去など、生徒が管理する保全林でもあるのです。そして私たちはこの保全林に「五農の森生活環境保全林」（写真 6）と命名しました。五農の森から情報発信、これからが本格的な活用になります。

図 2

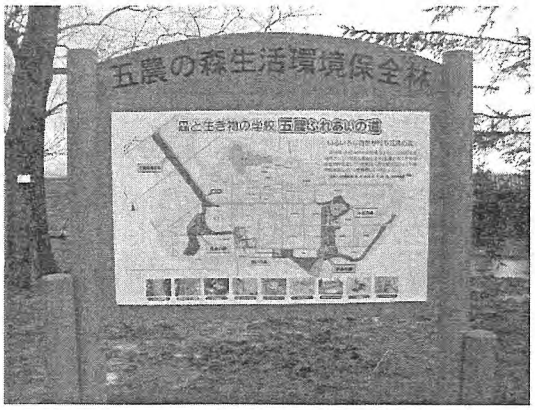

写真 6